

学術局研究支援部主催「PTの研究力を高める研究支援セミナー」のご案内

今年度から千葉県理学療法士会 学術局研究支援部では、千葉県士会員の研究支援の一環として、研究能力を高めるためのセミナーをシリーズで開催することとなりました。つきましては、第1回目、2回目のセミナーの概要、お申込み方法についてご案内させていただきます。どうぞ奮ってお申込みください。

PTの研究力を高める研究支援セミナー（第1回・第2回）

対 象（受講資格者）：千葉県理学療法士会会員限定

会 場：東都大学 幕張キャンパス1号館 1-C 講義室

（千葉市美浜区ひび野 1-1 幕張国際研修センター内 [アクセスmap](#)）

参加費：無料（第1回目・第2回目ともに）

申込方法：専用の申込フォーム（下のQRコード、URL）からお申込みください

※会場（東都大学）には駐車場がございません。公共交通機関か近隣の有料駐車場をご利用ください。

※会場は、幕張キャンパス1号館です。2号館（幕張テクノガーデン）ではございませんので、ご注意下さい。

※新プロや生涯学習研修会と異なり、本セミナーを受講しても履修ポイントは付与されません。ご注意ください。

開催テーマ（第1回・第2回について）

第1回 「研究方法入門」【7月28日（日）9:00～12:00】

1. 研究の意義とテーマの決め方（研究って何、なぜ研究するの？ 価値あるテーマとは？）
2. 研究の進め方（研究デザイン・計画の立て方。臨床研究介入研究・観察研究の手法）
3. 文献レビューの進め方（効率のよい論文の検索方法・入手方法・管理方法など）

◎講師：高杉 潤（東都大学）、稲垣 武（千葉大学附属病院）

第2回 「臨床研究の実践 part 1」【8月18日（日）9:00～12:00】

1. 臨床研究におけるデータの解析方法（統計手法－基礎編）
2. 演題抄録を効果的にみせる書き方と留意点

◎講師：中村睦美（東都大学）、高杉 潤（東都大学）、稲垣武（千葉大学附属病院）



参加申込フォーム
（第1回・第2回）

<http://bit.ly/2vrs0CR>

千葉県理学療法士会 学術局 研究支援部
セミナー開催事務局（お問合せ先）
杉浦史郎（西川整形外科）
kenkyu_sienbu@gmail.com

セミナーの概要（第1回・第2回）

第1回 「研究方法入門」【7月28日（日）9:00～:00】

「研究の意義・テーマの決め方。研究の進め方」 高杉潤（東都大学）

研究とは、分からないこと、明らかになっていないことを調べて明らかにすることです。例えば、臨床で分からない症状や不可思議な現象に遭遇すれば、専門家に尋ねたり、専門書や論文を調べます。もし、調べ尽くしても分からない場合は、誰も報告していない（明らかになっていない）、誰も知らない珍しい症候・現象に遭遇したことになります。この場合、調べている時点で研究は実践されており、珍しい現象が判明したなら報告に値する（価値の高い）研究テーマに遭遇したことになり、世に報告する責務が生じます。

理学療法士はなぜ研究するのか？研究の意義は？ その答えは、理学療法士自身が発展するため、そして医学の発展のためであり、ひいては患者様のためになるからです。本講座では、価値ある研究テーマを見つける秘訣、臨床研究における研究デザインと具体的な進め方について解説していきます。

「文献レビューの進め方」 稲垣武（千葉大学附属病院）

文献検索は、研究を始める時や論文を書く時だけでなく、我々理学療法士が臨床の中で感じた疑問を解決するために、日常的に行われるものです。また、研究の善し悪しは文献レビューの仕方にかかっているといっても過言ではありません。本セミナーでは、具体的な文献の検索方法や入手方法、さらには文献の管理方法について、演者自身の経験も交えてレクチャー致します。

第2回 「臨床研究の実践 part 1」【8月18日（日）9:00～12:00】

「臨床研究におけるデータの解析方法（統計手法－基礎編）」 中村睦美（東都大学）

研究を進める際に、「データは集めたが、どのような統計手法を使って解析をしてよいか分からない」など、困ったことはありませんか？今回は、統計学の基本の「き」から解説します。

具体的には、代表値、バラツキ、正規分布などの基本的な統計知識を学びます。また、t検定や分散分析法など代表的な検定手法についての約束事（すべきこと、してはいけないこと）を理解し、実際に論文に記載されている統計解析を理解することを目指します。

「演題抄録を効果的にみせる書き方と留意点」 高杉潤（東都大学）、稲垣武（千葉大学附属病院）

学会発表にエントリーするためには、研究の概要を簡潔にまとめた抄録を提出します。抄録は、「目的、方法、結果、考察（結語）（症例報告であれば、目的、症例、考察）」の流れで、決められた文字数の中で表現しなければなりません。抄録はタイトルを含め、一番最初に目にとまり、研究内容の善し悪しが判断される、いわば研究の顔になります。

悪い例としては、目的（何を明らかにするのか）が明確でない、結論を導くための核となるデータが抜けている、考察が恣意的、冗長である（結果に対する客観性、一貫性が乏しい）などが挙げられます。そこで本講座では学会に向けて、抄録を効果的にみせるためのエッセンスを紹介致します。